

全国精神衛生連絡協議会

会報

昭和56年11月

再刊2号

目次

- 1 巻頭言
第29回精神衛生全国大会にあたって(福岡県精神衛生協会会長 中尾弘之) …… 2頁
- 2 地方の動き …… 3頁
 - 1) 福岡県地域精神衛生対策協議会について …… 3頁
 - 2) 九州精神衛生協議会のあゆみ …… 3頁
- 3 昭和56年度の中央の動き
～昭和57年度予算要求における精神衛生関係予算～ …… 4頁
 - 1) 精神障害者リハビリテーション事業の創設 …… 4頁
 - 2) 老人精神衛生相談事業の創設 …… 4頁
- 4 トピック「我が国の精神衛生」誌の改訂・増補 …… 5頁
- 5 関連図書・文献—10の目録—(1891～) …… 5頁

1 第29回精神衛生全国大会にあたって

中尾 弘之

来る11月6日に、福岡市で第29回精神衛生全国大会が開かれます。前回は昭和38年に福岡市で開かれましたので、この大会は18年ぶりのことではありますが、それよりも今年は国際障害者年に当たりますので、これに関連した全国大会であるというわけで、開催地である福岡県と福岡市、その他、地元の期待と関心は大きくなっています。

大会の内容は、表彰式、記念講演、シンポジウムと、神奈川大会に見習いました。このうち記念講演とシンポジウムは実行委員会の工夫にまかされていますので、何回も委員会を開いて意見を交わし、記念講演の演者には、ねむの木学園園長、俳優の宮城まり子さんを選びました。この方は大変お忙しい方ですので、お引きうけいただけるかどうか危ぶまれましたが、日本精神病院協会長の斎藤先生の御尽力によって実現したしだいであり、

実は宮城まり子さんは、昨年、福岡市で開催された全国自治体病院学会で講演されたのであり、

大変な感動を呼んだと聞いています。もう一度お話を聞きたいという人に、何人も会ったくらいです。つぎのシンポジウムには、福岡大学の西園教授に司会をお願いし、その御意見を伺って、NHK中学生日記の高島秀之プロデューサー、諸外国の家族のあり方について実地調査をしておられる九州大学の丸山孝一助教授、老人問題に詳しい南小倉病院の矢内伸夫院長、離婚問題に詳しい湯川久子弁護士の4人の方々に討論していただくことになりました。この打ち合わせは去る9月28日に行ないましたが、議論は1時間半つづき、さらに夕食時にまでおよび、それ自体が面白いシンポジウムになりました。

錦秋の筑紫路に全国の皆さんをお招きいたします。私どもはこの大会を、地域精神衛生活動の一大跳躍台にさせていただくつもりです。

大会実行委員会会長
福岡県精神衛生協会会長

2 地方の動き

1) 福岡県地域精神衛生対策協議会について

富松 毅

昭和53年度から福岡県医師会および福岡県精神病院協会の精神科医師らは、精神衛生センターの協力をえて、地域社会の精神衛生活動を組織化すべく協議を重ねていた。行政と地域のなかで衛生・民生・教育・法曹などの広範な領域で、多岐多様にわたる精神衛生に関係する諸問題とその対策活動を整理して、連絡を密にした行動組織づくりを考えた為に、山積する難関をのりこえることは大変なことであった。屋上屋を架すといった批

判も受けたが、とにかく容易にやれる対策活動をまず実行してみることとなって、昭和54年度には福岡県地域精神衛生対策事業実施要綱、福岡県地域精神衛生対策協議会設置要綱が設定され、県内を4ブロックにわけたブロック精神衛生対策協議会も誕生した。(別表参照) 前県衛生部長浜口剛一氏、現県衛生部長酒井義昭氏の行政的な御尽力によって県費の予算化も実現し、特に56年は国際障害者年を記念して各ブロックの精神衛生大会も企

画することが出来たし心の電話開設も実現した。この協議会は現在誕生して3年目であるが、地域住民のニーズにこたえた密着した対策活動のあゆみが次第に拡充されていることは喜びにたえない。また、病院医療に専従していた精神科医師も、地域社会のフィールドに一步踏み出したプライマリメンタルヘルスケアに参画することにもなっており、やゝもすれば地域医師会から孤立化せんとする傾向があった過去のスタイルも変化したようにさえ感じる。

現在は関係諸行政も地域社会も、なお多少残る横の連繋づくりの困難性をのりこえながら、無理をせず組織的対策活動の効果が地域浸透する努力が重ねられている。

ブロック協議会の名称及び区域を次のとおりとする。

ブロック名	管轄区域	管内の公私的機関						区域内人口 (54.9.1現在)
		保健所	医師会	精神病院	警察	福祉	市町村	
福岡	福岡市及び粕屋、筑紫糸島、宗像保健所管内	9	5	37	12	10	26	1,665,787
北九州	北九州市及び京都、筑上、遠賀保健所管内	10	4	26	9	14	23	1,389,991
筑豊	飯塚、直方、田川、宮田、大隈、添田保健所管内	6	4	16	6	7	25	489,036
筑後	大牟田、久留米、朝倉三井、浮羽、八女、黒木、山門、三猪保健所管内	9	8	21	12	11	33	958,820
計		34	21	100	39	42	107	4,503,634

2) 九州精神衛生協議会のあゆみ

糸永 義明

九州精神衛生協議会は、昭和35年9月に九州各県の精神衛生協(議)会の集まりとして結成されました。昭和35年はちょうど「世界精神衛生年」であり、その記念事業の一環として組織されたものであります。

すなわち、精神衛生の諸問題はその特殊性のた

最後に事業内容とブロック協議会の概要を記載する。

一事業内容一

- (1) 地域精神衛生に関する民間活動の積極的推進
- (2) 「心の健康」に関する知識の普及啓蒙の強化
- (3) 精神障害者並びに回復者の社会生活及び社会復帰活動の促進
- (4) 市町村健康づくり事業等に対する技術的援助協力の促進
- (5) その他「心の健康」相談、指導に関する事業の推進

福岡県地域精神衛生対策協議会常任幹事
福岡県精神衛生協会常任理事

めに、その対応も単に限られた地域で実施されるだけのものではなく、より広い地域における問題として、同じ目的をもつ関係機関が連係しながら活動していくことの必要性が認識されてきたことが結成の契機でもありました。

当協議会の主な事業をこれまでの歩みのなかで

みてみますと、

○ 九州の精神衛生大会の開催

昭和35年結成時から、当協議会のメイン事業として九州精神衛生大会が各県に持ち回りで開催されました。精神衛生事業功労者の表彰、講演さらには大会決議などをとおして九州地区の精神衛生事業の推進に大きく貢献してきましたが、この大会は昭和49年15回大会（宮崎市にて開催）をもって一応その所期の目的を達成したものと、以後の開催を取り止めることになりました。当時の精神医療界の情勢等を勘案しての結果でもありました。同大会の趣旨は、その後の各県において実施されている精神衛生大会に引き継がれて今日に

3 昭和56年度の中央の動き

1) 精神障害者リハビリテーション事業

(精神障害者職業参加促進制度ないし職親制度)の創設

さきに精神障害者職親制度検討委員会（委員長、菅又 淳 前東京都精神衛生センター長）の中間報告（精神障害者職業参加促進制度に関する中間報告について、昭和56年4月22日）が出されたが、今回この経過を踏まえて、57年度の予算要求として、「精神障害者リハビリテーション事業」を要求することとなった。これは、回復途上にある精神障害者について、軽度の医療にあわせて、事業所などで働く能力、社会適応能力を育てる機会を作ってゆくことが、社会復帰の促進ないしは再

2) 老人精神衛生相談事業の創設

本格的な高齢化社会を迎えようとしている今日、老人の問題は多角的な検討を迫られており、精神衛生の分野でも施策の充実が急務である。とくに痴呆性疾患などについての地域精神衛生面からは対策は、緊急の課題であるため、57年度予算要求として、「老人精神衛生相談事業」を要求すること

至っています。

○ 理事会

昭和52年になり、当協議会の事業は理事会開催という新しい形で再発足し現在に及んでいます。理事会の機能としては、各県協（議）会の連絡の他、その時々における精神衛生問題が協議されています。

たとえば、昭和52年「アルコール中毒専門治療施設」の設置について、昭和53年「精神障害者福祉法（仮称）の制定について」などが協議され、それぞれ九州精神衛生協議会の名において、国・政府関係機関に要望として具申されました。

（九州精神衛生協議会福岡県理事）

発・再入院の防止の上からも有効な施策であると考えられていることによる。

57年度の要求額 54,739,000円

対象人員（初年度） 611人

（5ヶ年計画 3,086人）

補助先 都道府県

補助率 2分の1

予算要求における名称「通院患者リハビリテーション」

となった。これは、老人やその家族に対する精神衛生教育、相談・指導などを事業の骨子とするものである。

57年度の要求額 30,635,000円

実施保健所（初年度） 51保健所

（5ヶ年計画 425保健所）

精神衛生相談員の配置（初年度） 25人

（5ヶ年計画 181人）

4 トピック

「我が国の精神衛生」誌の改訂・増補

長らく、ほぼ同一の骨格で編集されてきた厚生省公衆衛生局精神衛生課監修「我が国の精神衛生」が、この度（56年10月）大幅に改訂・増補されて、頁数も二倍弱まで増え、56年版として発行された。

改訂・増補のポイントは、通院、デイ・ケア医療、入院など医療面を支える要領、指針、基準などを網羅していること、各社会復帰関連施設の概要とともに予算の概略、それぞれの施設の運営要綱が収められていること、酒害予防対策についての最近の行政の歩みが、概念上の整理の問題を含めて掲載されていること、覚醒剤中毒では、概況の説明と同時に、覚醒剤乱用対策実施要綱（薬物

補助先 都道府県及び保健所を設置する市

補助率 100分の33.5

乱用対策推進本部）などが加えられていること、などである。

また、精神衛生法のしくみ、通院公費負担制度、措置入院制度のしくみ、社会復帰システム、酒害予防対策などについての関連図が記されているのも今回の改訂・増補版の大きな特徴である。

副題に（精神衛生ハンドブック）という名称が付され、そこに改訂の意図も込められているが、行政の実務にたずさわる人たちはもちろん、関連する多くの職種の人々が手元に置くにふさわしい内容になっている。（発行所は後記）

5 関連図書・文献—10の目録—(1981~)

Death and Dying: Individuals and Institutions, Backer, B. A. (Jan.1982).

Lansky, M.R. (ed), 1981

Epilepsy Problems of Marriage, Pregnancy, Genetic Counseling: Meeting of the German, Danish, Dutch and swiss Section of the International Leagues Against Epilepsy; Regional Conference of Epilepsy International, Kiel, Gross-Selbeck, G., Doose, H. (ed.), 1981

Family Therapy: A Nursing Perspective, Clement, I., Buchanan, D., (Feb.1982).

Future Perspectives in Behavior Therapy, Michelson, L., et al. (ed), 1981

Genetic Strategies in Psychobiology and Psychiatry, Gershon, E.S., et al. (ed), 1981

Family Therapy and Major Psychopathology. (A Seminars in Psychiatry Monograph)

Handbook of Behavior Modification with the Mentally Retarded, Matson, J.L., McCar-

tney, J.R.(ed.), 1981

Problem). House Select Committee on Aging committee Print, 1981.

Management of the Psychiatric Emergency,
Soreff, S.M., 1981

Health Consequences of Marihuana Abuse:
Recent Findings and the Therapeutic Uses
of Marihuana and Use of Heroin to Reduce
Pain, House Select Committee on Narco-
tics Abuse and Control Print, 1981

(CIS Microfiche Library)—Congress—

Elder Abuse (An Examination of a Hidden

昭和56年度

わが国の精神衛生(精神衛生ハンドブック)

発行所 財団法人厚生問題研究会

T E L 03 (501) 4 8 5 3

東京都豊島区東池袋 4-24-2

協栄生命ビル 6 F

単価 950円 30部以上 850円

事務局だより

- ・ 前号に記したように11月13日(金)、同14日(土)大阪商工会議所国際会議ホールで精神衛生国際セミナーが開催され、引きつづき各地で各講師を迎えての講演会が行われます。本連絡協議会関係でも「ぜんかれん」「育成会」と共催で11月16日午後 Dr. H. Matheussen (ベルギー、ゲール国立病院長)を講師に、会長の加藤が総司会をつとめ、研究集会を持ちます(東京、四谷、野口英世記念会館、講演と映画による研究集会)。
- ・ 各地の動きを伝え合う「地方精神衛生」誌を段々と充実させたいと思いますので、来年はより多くの協会・協議会からレポートをいただけるよう願っています。
- ・ おねがい：協会・協議会の刊行物を事務局に備えておきたいと思いますので、研究所分とは別にお送り下さるようお願い致します。

昭和56年11月 発行

編集・発行 加藤 正明

発行所 〒272 市川市国府台 1-7-1

国立精神衛生研究所内

全国精神衛生連絡協議会事務局